

人文学部卒業研究

題目 **高校演劇の魅力
～脚本チームに密着して～**

指導教授 **三摩 真己** 印

提出年月日 **2018年 3月 1日**

学籍番号 **HI15006**

氏名 **伊藤 慎吾**

卒業制作テーマ
『高校演劇の魅力～脚本チームに密着して～』
HI15006 伊藤慎吾

要旨

高校演劇は、今や部員が数少なくなっている。この映像は、一般的に知られていない高校演劇の魅力伝えるものである。私が高校時代に所属していた暁高校演劇部は、全国高等学校演劇大会で過去5年間に3回県大会を突破した、地域の強豪校だ。

三重県では、北勢地区大会で8校中上位4校が県大会に進める。そして県大会では8校中上位2校が中部大会に、中部大会で10校中1校のみが高校演劇の全国大会に出場することができる。北勢地区大会は半分の高校が県大会に出場することができるため、競争率が低いように見えるが、実はこの地区は実績のある高校が多く、強豪校といえども県大会出場を勝ち取るのは難しいとされる。暁高校も去年は地区大会こそ勝ち抜けたものの県大会は突破できなかった。それだけに今年はリベンジの気迫にあふれていた。

暁高校の特徴はオリジナルの脚本で、大人数の演者が舞台狭しと動き回る賑やかな演劇だ。オリジナルの脚本を作るために脚本チームの生徒たちは懸命にアイデアを絞り出す。本作品ではこの脚本チームを主軸に部員達が地区大会に出場、そして県大会出場を勝ち取るまでを描くこととした。

しかし脚本チームの作業が予想以上に進まなかった。話の展開に矛盾が生じたり、情景説明が長すぎて話の展開がなかなか進まなかったりしたのだ。涙を流し脚本の遅れを詫げる脚本チーム。しかし部員達は彼らを非難しなかった。顧問の先生やOB、OGの意見も参考にしながら自分達で脚本を作り上げることにこだわり、みんなで協力して最終的に躍動感あふれる舞台を作り上げた。

本作品は演劇に青春をかけた高校生たちの友情と絆、団結を描いた作品となっている。制作者としては高校演劇を広め、活性化させたいという想いを込めたつもりだ。

キーワード

暁高校演劇部 高校演劇 脚本チーム 説明口調 演劇に対する強い思い 山中愛子

目次

1. なぜこのテーマを選んだのか	1
2. ねらい	1
3. 構成	2
3.1 オープニング	2
3.2 学校紹介	2
3.3 暁高等学校演劇部	2
3.3.1 顧問の先生に今の部員についてインタビュー	3
3.4 大会までの作業	3
3.5 脚本チーム	4
3.5.1 脚本の現状についてのインタビュー	4
3.5.2 キャストの現状	4
3.6 脚本締切日	5
3.6.1 問題についてのインタビュー	5
3.6.2 脚本についてのミーティングとセリフの定着	5
3.7 四日市市三浜文化会館	6
3.7.1 脚本が未完成、顧問のインタビュー	6
3.7.2 キャストは今後どうしていくのかを演出にインタビュー	6
3.7.3 山中愛子さんの思い	6
3.8 脚本が完成した時の山中愛子さんの感想	7
3.8.1 ストーリーの説明	7
3.9 大会当日、楽屋入りまで	7
3.9.1 楽屋入り	8
3.9.2 暁演劇部の本番「あけよ」	8
3.9.3 結果発表	8
3.10 エンディング	8
4. 作品を通じて感じたこと	9
5. 参考資料	9
付録1 構成表	i
付録2 台本	x